

中学生の部

最優秀賞 「平和とは」



第二中学校 三年

藤垣千里さん

世界では、内戦や紛争などが続いている。そしてどれもみんな、終結の兆しを見せていない。戦闘によって、何の罪もない多くの人が殺され、死んでいく。生き残った人は、食料もなく、次は自分が殺されるのではないかとおびえていると思う。戦争をして一体何をすることが出来るだろう。戦争をすることに何の意味があるだろう。戦争はくだらない。みんなは戦争が早く終わってほしいと、平和に暮らしたいと願っているはずだ。

戦争の中で忘れてはならないのは原爆だ。日本は二度、原爆による被害を受けた。そして、世界で初めて、ただ一つの被爆国となった。もう原爆による被害はたくさんだという意味でできたであろう、持たず・作らず・持ちこませ

ずの三原則。これは、被爆した日本だからこそ、掲げられるものではないだろうか。また、日本は二度と戦争をしないと憲法で宣言している。これもやはり、戦争による過ちを二度と繰り返さないためにできたものだと思う。

インド、パキスタンと相次ぐ核実験。どんどん強力になっていく核。新兵器の開発。増える核保有国。こんな調子では、せつかくの核に対するとりきめも全くの無意味だ。



平和への一歩。それは核の廃絶だ。一度つくった核は、簡単に処理することはできない。長い道のりかもしれない。大変かもしれない。でも、世界中から核をなくしてほしい。それが私の願いでもある。

終戦から今年で五十三年。私たちは、戦争の恐ろしさも、苦しさも、悲惨さも知らない。対照的に戦争を経験した人たちは、どんなに少なくなっていく。だんだん戦争という言葉が薄れていく中で、私たち日本人は、「戦争」という

高校・短大・一般の部

最優秀賞 「小さな幸せから」



鳳鳴高校 一年

金田一理絵さん

「ばあちゃん、ばあちゃんはこの世って平和だと思う？」
「んだな、戦争時代に比べれば平和だ。」

こんな答えが返ってきた。確かに、戦後五十年の間、世界中の人々が平和を願う様々な努力をしてきた。

二文字を忘れてはならない。そして、二度と同じ過ちを繰り返してはならない。戦争を知らない私たちだからこそ、「平和」という言葉にもっと慎重にならなくてはならないのではないだろうか。

平和を願う憲法、宣言、そして平和祈念式典など、これらのおかげで今の地球があるのだと思う。でも本当の平和は、まだ訪れていない。

五月十一日、周囲の反対を押し切ってインドが核実験を行った。

優秀賞 5人	
桜庭 香織	東 中 三年
藤田 菜美子	成章中 二年
滝沢 紗織	成章中 一年
山内 麻祐子	矢立中 一年
鳴海 まい	東 中 一年